

Nissin
DIGITAL

MG80 Pro

キヤノン用 / ニコン用 / ソニー用

取扱説明書



ニッシン製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
ご使用にあたっては、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いいただきますようお願いいたします。また、カメラの操作・機能に関しましては、ご使用になるカメラの取扱説明書をご参照ください。

対応カメラ

最新の対応カメラ一覧表は、

<https://www.nissin-japan.com>でご確認ください。



ニッシンエアシステム(NAS)はニッシンストロボとニッシンコマンダー専用設計されたシステムです。

- 他社の電波式TTLワイヤレスシステムとの互換性はありません。
- 2.4GHz帯 (ISMバンド) ※技術基準適合認定取得済み
- 使用可能範囲: 最長100m (使用環境によって異なります)
- 金属、ケーブル類、壁、2.4GHz帯を使用する他の機器などによって、NASの使用可能範囲が制限される場合があります。

製品保証について

本製品はメーカー保証が適用されますので製品添付の保証書を大切に保管してください。なお、本製品のアクセサリは消耗品扱いとなりますのでメーカー保証は適用されません。

安全上のご注意 ■必ずお守りください。

ご使用になる人や他人への危害、財産への損害を未然に防止する為、お守り頂くことの説明をしています。よくお読みになり取扱いにご注意ください。

 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、感電したり、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。必ずお守り下さい。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容、および物理損害の発生が想定される内容を示しています。必ずお守りください。



警告

- 熱くなる、煙が出る、焦げ臭い、液漏れ、変色などの異常が発生した時は、やけどに十分な注意して速かに電池を取り外してください。
- 本機は高電圧の部分がありますので、絶対に分解しないでください。修理の場合は、弊社に直接またはご購入頂いた店舗にご依頼下さい。
- 落としたり、破損したりした場合、または機器の中に物体が落ち込んだ場合には、絶対に露出部分に触れないでください。
- 人の目の前（特に乳幼児）に近づけて発光しないでください。目の近くで発光させると、視力傷害を起こす危険性があります。特に乳幼児を撮影する場合は1m以上離れてください。
- コップ、化粧品、薬品の入った容器のそばで使用しないでください。こぼれたり、機器の中に入ったりした場合、火災、感電または傷害の原因になります。
- 本機は防水ではないので、雨が掛かる場所や、湿度の高い場所に置かないでください。
- 自動車など40℃を超えるような高温になる場所に放置しないでください。
- 可燃性ガスおよび揮発性ガスなどが大気中に存在する恐れがある場所で使用しないでください。
- 走行中の車輛に向けてフラッシュをたかないで下さい。
- 発光面を人の身体に近づけて発光しないでください。怪我する恐れがあります。
- バッテリーは正しくセットして下さい。極性を間違えると液漏れや発火、爆発の原因になります。



注意

- 電池を高熱にさらさないでください。
- 乾電池は充電しないでください。
- 連続発光後は本体（特に発光パネル部）や電池が熱くなっていますので、火傷にご注意ください。
- 不安定な場所で本機を使用しないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下したりすることにより怪我の原因となる場合があります。
- 強い衝撃を与えたり、床に投げつけたりしないで下さい。



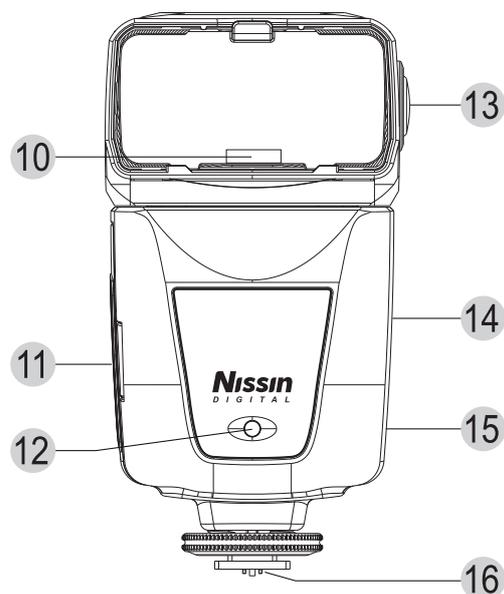
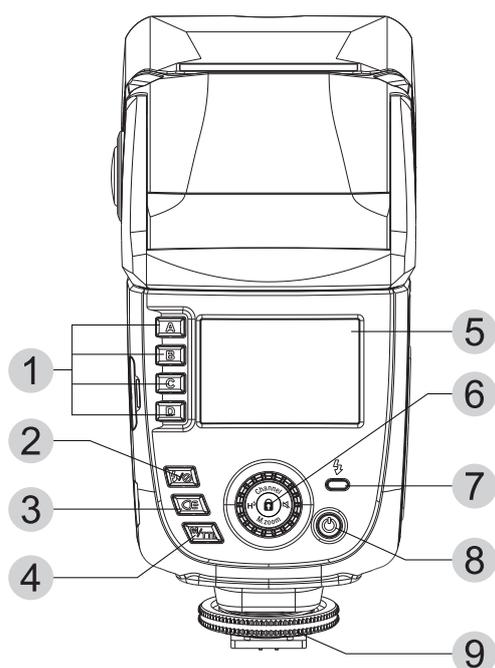
その他の注意

- ベンジンやシンナー、アルコールなどで本機を拭かないでください。変色や変形の原因となります。汚れのひどいときは柔らかい布で乾拭きしてください。
- 本機を長期間使用しない場合は、液漏れ防止のため電池を抜いて保管してください。

目次

対応カメラ	2
製品保証について	2
安全上のご注意	3
各部名称	5
お使いいただく前に	6、7
電池を入れる	6
バッテリー警告、省エネ機能	7
基本操作	7、8
カメラに装着する	7
カメラから外す	8
電源を入れる／電源を切る	8
ズームカバーとワイドパネル	9
動作モードの設定	10
オンカメラモード	11～13
TTLモード	11、12
マニュアルモード	12
照射角の設定	13
コマンダーモード	13～17
コマンダーモードで使用するための準備	13
ペアリングの方法(コマンダーモード時)	14、15
コマンダーモード時の基本操作	15、16
照射角の設定、発光ON/OFFの設定	17
スレーブモード	18、19
スレーブモードで使用するための準備	18
ペアリングの方法(スレーブモード時)	18
スレーブモードの基本操作	19
発光グループの設定	19
その他の設定・機能	20～26
ハイスピードシンクロ(FP発光)	20
後幕シンクロ	21
赤目緩和機能	21
チャンネル設定	21
オープンモード	22
アドバンスグループ	23
ミックスモード	23
TTLメモリー機能	24
モデリングライト	24
ビープ音のON/OFF設定	24
AF補助光	25
限定オートズーム	25
操作ロック	26
バウンス撮影	26
ガイドナンバーテーブル	27
主な使用	28
リチウムイオン充電電池の使用について	29～31

各部名称

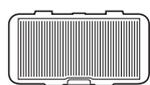


- 1 グループ選択ボタン
- 2 発光オン/オフボタン
- 3 モデリングライトボタン
(長押し:基本グループ/アドバンスグループ切替ボタン)
- 4 モードボタン
(長押し:オープンモードボタン)
- 5 LCDパネル
- 6 セレクトダイヤル
チャンネルボタン
HSSボタン
ピープボタン
ズームボタン
決定ボタン(長押しまたはダブルクリック:操作ロックオン/オフボタン)
- 7 パイロットランプ(テスト発光ボタン)
- 8 電源ボタン
- 9 固定リング

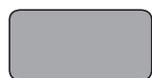
- 10 モデリングライト
- 11 電池室カバー
- 12 AF補助光※1
- 13 バウンスロックボタン
- 14 マイクロSDカードスロット
(ファームウェアアップデート用)
- 15 シャッターケーブルソケット(2.5mm)
- 16 取付足・接点

※1.カメラの仕様により点灯しない場合があります。

● アクセサリー



ワイドパネル



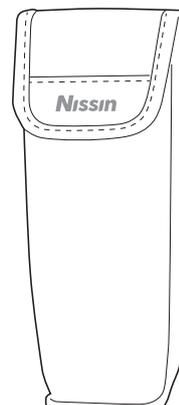
アンバーフィルター



フィルターホルダー



ミニスタンド



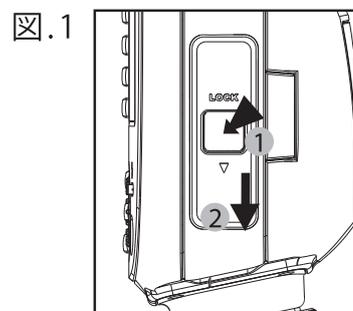
ソフトケース

お使い頂く前に

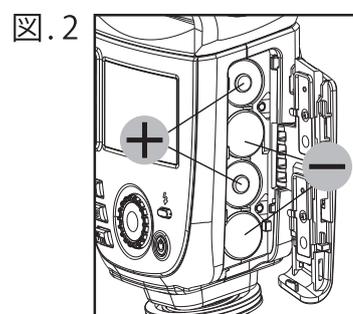
電池を入れてください

14500タイプのリチウムイオン充電電池^{※1}または単3形ニッケル水素充電電池をお使いください。

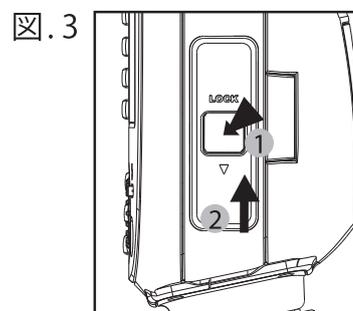
1. 電池カバーを開けてください。



2. 4本の電池を図のように入れてください。
+-の向きにご注意ください。



3. 電池カバーを閉めてください。



※動作確認済のリチウムイオン充電電池についてはニッシン
ジャパンホームページのMG80 Pro 製品情報にてご紹介して
います。

ⓘ 注意

電池は、同じブランドで同じタイプの新しい電池を使用してください。同時に交換することをお勧めします。また、充電電池の場合は、すべて同時に充電した電池を使用してください。

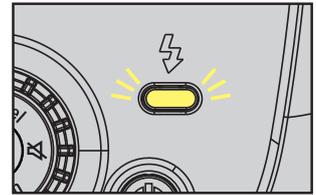
⚠ 重要

リチウムイオン充電電池は**必ず保護回路付き**のものをご利用ください。保護回路のない充電電池は絶対に使用しないでください。
なお、リチウムイオン充電電池をご利用になる場合は必ず26～28ページの「リチウムイオン充電電池の使用について」をお読みください。

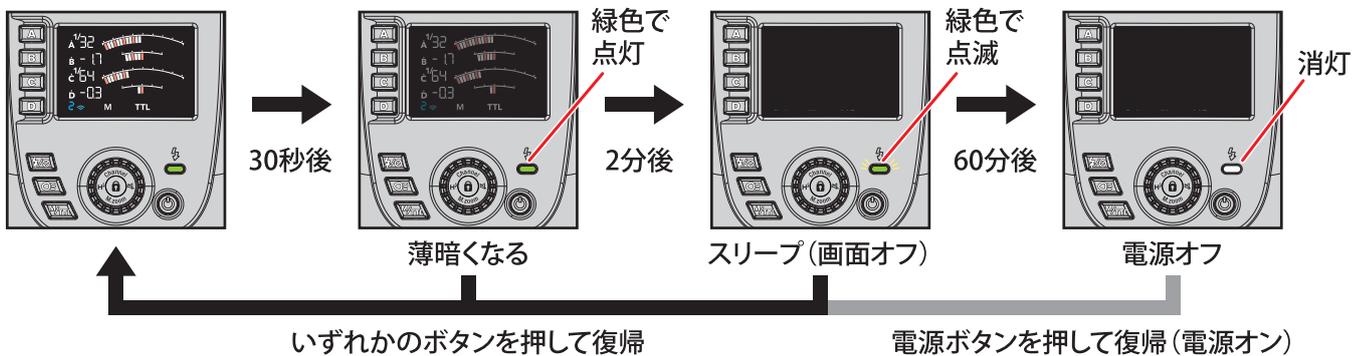
バッテリー警告

パイロットランプが黄色で点滅した時は、以下を意味します。

- 電池の向きが間違っている。
- 電池電圧の低下。
- 電池の加熱保護（リチウムイオン充電電池使用時）。
- 電池の種類が混っている。



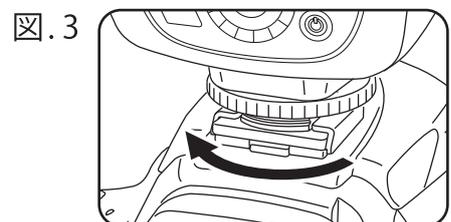
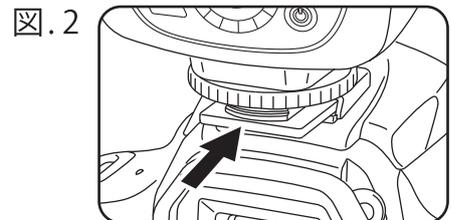
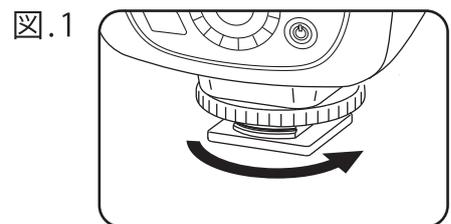
省エネ機能



基本操作

MG80 Proをカメラに取り付ける

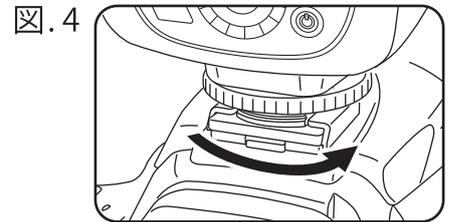
1. MG80 Proの電源がオフになっていることを確認して下さい。
2. ロックリングを反時計方向に回して緩めます。(図.1)
3. カメラのホットシューにMG80 Proの取付足を挿入します。(図.2)
4. ロックリングを時計方向に回してしっかりと固定します。



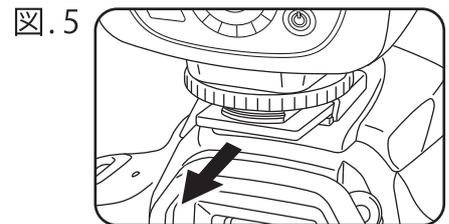
MG80 Proをカメラから外す

1. MG80 Proの電源がオフになっていることを確認してください。

2. ロックリングを反時計方向に回して緩めます。(図.4)



3. MG80 Proをスライドさせて、丁寧にゆっくりと外して下さい。(図.5)

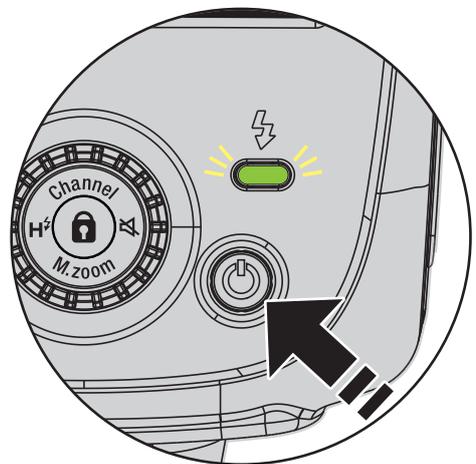


ⓘ 注意

カメラやライトスタンドにMG80 Proを取り付けた際、MG80 Proを掴んで持ち上げないで下さい。取付足やカメラのホットシューが破損する恐れがあります。

電源を入れる／電源を切る

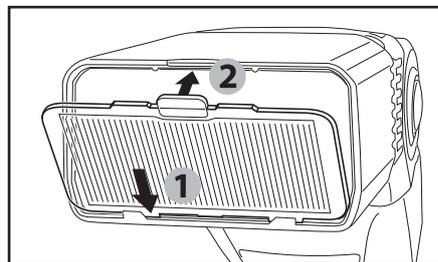
- 電源ボタンを押すと電源が入り、パイロットランプが赤色に点灯し、充電が開始されます。
- 充電が完了すると、パイロットランプが緑色に変わり、本機が使用可能になります。
- 電源を切る場合は、再度電源ボタンを押します。



ズームカバーとワイドパネル

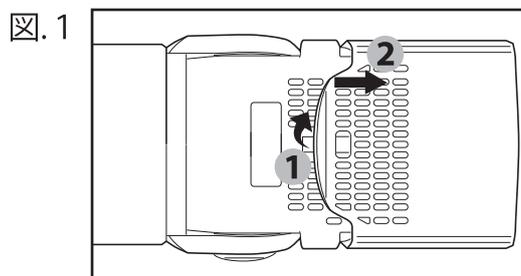
ワイドパネルとフィルターホルダーとズームカバーの使用方法

1. MG80 Pro の電源を切ります。
2. ズームカバーとワイドパネル、またはフィルターホルダーの間にフィルターを差し込みます。
3. ワイドパネルまたはフィルターホルダーを①へ差し込みます。
4. ワイドパネルまたはフィルターホルダーを②の方向に押し蓋をします。
5. ワイドパネル使用時は、照射角を 24mm に設定します。



ズームカバーの外し方

1. MG80 Pro の電源を切ります。
2. ズームカバーを前方いっぱいに出し、少しだけ (数 mm) 戻し、爪を①の方向に持ち上げて②の方向にスライドさせて引き抜きます。(図.1)



※取付の際はズームカバーの上下を確認し、MG80 Pro の発光部にスライドさせて取り付けてください。

ⓘ 注意

ズームカバーを外す時は、中の発光面が高温になっている場合があります。火傷の危険性がありますので絶対に直接手で触らないでください。

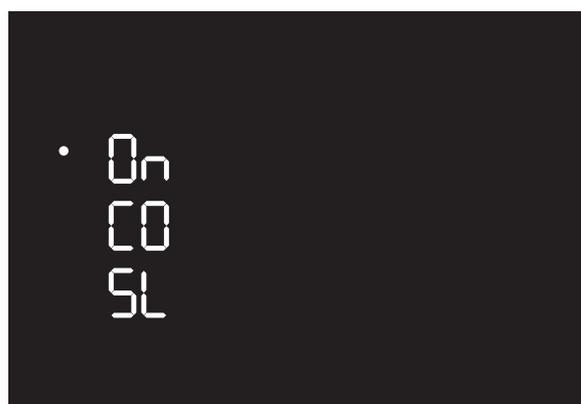
動作モードの設定

MG80 Proには3つの動作モードがあります。

1. オンカメラモード
2. コマンダーモード
3. スレーブモード※1

MG80 Proの電源が入った状態で電源ボタンを3秒間長押しすると、動作モード選択メニュー（右図）が表示されます。

セレクトダイヤルを回して3つの動作モードから1つを選択し、 ボタンを押して決定します。



・ On

オンカメラモード

MG80 Proをカメラに取り付けて発光させる時に設定します。

・ CO

コマンダーモード

MG80 ProをNASコマンダーとして、スレーブのNASストレージをリモート操作する時に設定します。カメラに取り付けて使用します。

・ SL

スレーブモード

MG80 Proをスレーブとして使用する時に設定します。カメラから取り外して使用します。

※1. NAS コマンダーとの電波式通信のみ対応。光学式スレーブとしての機能はありません。

オンカメラモード

MG80 Pro をカメラのホットシューに取り付けて発光させる場合は、オンカメラモードを選択します。

オンカメラモードで使用するための準備

- カメラに MG80 Pro を取り付けます。
- MG80 Pro の電源を入れた後、再度電源ボタンを 3 秒長押しして、動作モード選択画面を開きます。
- 動作モード選択画面で、セレクトダイヤルを回してオンカメラモードを選択します。決定するには  ボタンを押します。

発光モードの選択

自動調光の TTL モード、手動調光の M (マニュアル) モードの 2 つの発光モードがあります。発光モードを切り替えるには、M/TTL ボタンを押して切り替えます。

TTL は発光量を自動調節するモードで、調光補正により発光量を微調整できます。TTL を選択すると、液晶画面下部に「TTL」と表示されます。

M モードは発光量を手動調節するモードです。M モードを選択すると、液晶画面下部に「M」と表示されます。

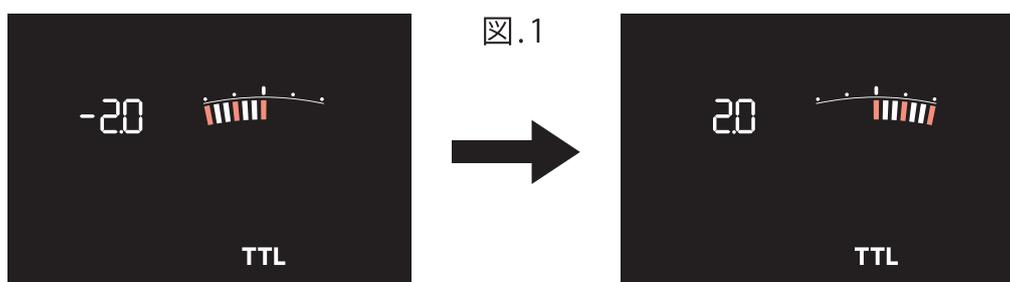
光量調整

◆ TTL モード

TTL は発光量を自動調整するモードで、調光補正により光量の調整ができます。液晶下部に「TTL」と表示されます。

調光補正の仕方：

- セレクトダイヤルを回すと補正值が1/3EVステップで増減します。調光補正は-2EV～+2EVの範囲で調節が可能です。(図1)
- 明るくしたいときはセレクトダイヤルを時計方向に、暗くしたいときには反時計方向に回してください。

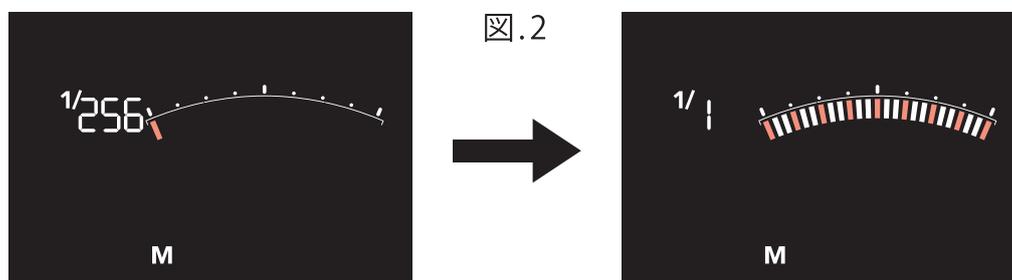


◆マニュアル (M) モード

マニュアルモードは手動で発光量を調節するモードです。液晶下部に「M」と表示されます。

調光補正の仕方：

セレクトダイヤルを回すと発光量が増減します。明るくしたいときはダイヤルを時計回りに、暗くしたいときは反時計周りに回してください。発光量は1/256 (最小)～1/1 (最大)の範囲で、1/3EVステップずつ調節が可能です。(図2)



照射角の設定

M.Zoomボタンをダブルクリックし、照射角設定画面に入ります。
レンズの焦点距離に合わせた照射角に設定する場合はA(オート)を選択してください。(初期設定ではオートに設定されています。)
照射角をマニュアルで設定する場合は、
24mm / 28mm / 35mm / 50mm / 70mm / 85mm / 105mm / 135mm / 200mmの間で選択できます。設定を終えるには、M.Zoomボタンをダブルクリックします。

コマンダーモード

コマンダーモードでは、NASストロボやNASレシーバーに載せたストロボを、遠隔操作により発光モードや光量をコントロールして発光させることができます。コマンダーモードに設定したMG80 Pro自体もオンカメラで発光させることができます。

コマンダーモードで使用するための準備

- カメラにMG80 Proを取り付けます。
- MG80 Proの電源を入れた後、再度電源ボタンを3秒長押しして、動作モード選択画面を開きます。
- 動作モード選択画面で、セレクトダイヤルを操作してコマンダーモードを選択します。決定するには  ボタンを押します。
- 一度、MG80 Proの電源を切ります。
- コマンダーモードのMG80 ProとNASストロボまたはNASレシーバーをペアリングします。次項の「ペアリングの方法」をご覧ください。
- ペアリングが成功すれば準備は完了です。
- **【ソニー用のみ】**カメラメニューでワイヤレスフラッシュの設定を「入」にしてください。

ペアリングの方法

【ステップ1】：コマンダーモードの MG80 Pro、およびペアリングを行う NAS ストロボ・レシーバーの電源を切ります。

MG10 / MG8

1. OPEN モードボタンと電源ボタンを同時に約 3 秒間長押しします。
2. ビープ音が鳴り始めたら手を離します。ステップ 2 へ進みます。

MG80 Pro (スレーブモード)

1. MG80 Pro の電源が入った状態で、電源ボタンを 3 秒間押しして動作モード選択メニューを開きます。
2. スレーブモードを選択してから電源を一度切ります。
3.  ボタンと MG80 Pro の電源ボタン同時に約 2 秒間長押しします。
4. ビープ音が鳴り始めたら手を離します。ステップ 2 へ進みます。

i60A

1.  ボタンと電源ボタンを同時に約 3 秒間長押しします。
2. ビープ音が鳴り始めたら手を離します。ステップ 2 へ進みます。

Di700A

1. セットボタンと電源ボタンを同時に 3 秒間長押しします。
2. ビープ音が鳴り始めたら手を離します。ステップ 2 へ進みます。

AirR

1. 電源ボタンを 3 秒間長押しします。
2. ビープ音が鳴り始めたら手を離します。ステップ 2 へ進みます。

【ステップ2】：コマンダーモードの MG80 Pro を操作します。

- コマンダーモードに設定した MG80 Pro の電源が OFF になっていることを確認します。
-  ボタンと電源ボタンを同時に約 2 秒間長押しし、手を離します。
- (ステップ1の) ビープ音が鳴り止んだらペアリング完了です。

⚠ 注意

Di700A、i60A、レシーバー Air R は、コマンダーモードの MG80 Pro のチャンネル 1 に対応していません。チャンネル変更をする場合は、チャンネル 2～8 を使用してください。チャンネル設定方法については、各製品の取扱説明書で確認してください。

【メモ】：ペアリング操作後もビープ音が鳴り続ける場合、ペアリングができていないことを意味します。一度、MG80 Pro の電源を切ってからもう一度ペアリング操作をしてください。

コマンダーモード時の基本操作

発光モードの選択

発光モードは、自動調光の TTL モード、手動調光の M (マニュアル) モードの 2 つのモードがあります。発光モードを切り替えるには、モードボタンを押して切り替えます。

TTL は発光量を自動調節するモードで、調光補正により発光量を微調整できます。TTL を選択すると、液晶画面下部に「TTL」と表示されます。

M モードは発光量を手動調節するモードです。M モードを選択すると、液晶画面下部に「M」と表示されます。

【メモ】：基本グループ(A/B/C/D)の発光モードは、一括してTTLモードまたはMモードのどちらか一方を選択することになります。基本グループでは発光モードの混在はできません。
一方、アドバンスグループ($\dot{A}/\dot{B}/\dot{C}/\dot{D}$)ではTTLモードとMの混在発光(ミックスモード)が利用可能です。(例： \dot{A} と \dot{C} をTTL発光、 \dot{B} と \dot{D} をM発光など)アドバンスグループおよびミックスモードについてはP.23をご覧ください。

光量の設定

◆TTLモード

《調光補正の仕方》

- 光量を変更するグループのボタンを押してグループ表示を点滅状態にします。
- 明るくしたい時は+方向(時計方向)に、暗くしたいときは-方向(反時計方向)にセレクトダイヤルを回します。調光補正は-2EV~+2EVの間で1/3EVステップずつ調節が可能です。
- 設定を終了するにはもう一度グループボタンを押して、グループ表示を点灯状態にしてください。

◆M(マニュアル)モード

《光量調節の仕方》

- 光量を変更するグループのボタンを押してグループ表示を点滅状態にします。
- セレクトダイヤルを回すと発光量が切り替わります。明るくしたいときはダイヤルを時計回りに、暗くしたいときは反時計回りに回してください。発光量は1/256(最小)~1/1(最大)の範囲で、1/3EVステップずつ調節が可能です。

照射角の設定

- M.Zoom ボタンをダブルクリックし、照射角設定画面に入ります。
- セレクトダイヤルを回すと照射角を設定することができます。この時全てのグループの照射角が連動して変化します。
- グループごとに照射角を設定したい場合、照射角を変更するグループのグループボタンを押します。複数グループ同時に選択することも可能です。
- 選択したグループの表示が点滅します。この時セレクトダイヤルを回すと、点滅しているグループだけ照射角が変化します。
- 設定を確定するには、設定したグループのグループボタンを押します。設定を終えるには、M.Zoom ボタンをダブルクリックします。

発光ON/OFFの設定

グループオン・オフボタンを押すとスレーブの発光 ON/OFF 設定ができます。例えば B グループに設定したスレーブの発光を一時的に止めたい場合は、B のグループボタンを押して、B の文字が点滅している状態でグループオン・オフボタンを押すと B グループの発光を止めることができます。発光 OFF の状態から発光を再開させる場合も同じ操作をします。設定を終えるには、点滅しているグループのグループボタンを押します。点滅から点灯に変わり、設定が完了します。

- 【メモ】**： コマンダーモードに設定された MG80 Pro 自身も発光可能です。発光モード・発光量・照射角はアドバンスグループ (P.21) の A グループで設定します。
- 発光を止めたい場合は、A グループを選択し、発光オン/オフボタンを押します。発光を再開させる場合も同じ操作をします。

※キヤノン用に限り、ファームウェアバージョンが5-6以前のバージョンの場合、コマンダーモードに設定された MG80 Pro の発光モード・発光量・照射角の設定は基本グループの A グループで設定します。

スレーブモード

MG80 Pro をスレーブとして使用するには、動作モード選択画面にてスレーブモードに設定します。スレーブモードの MG80 Pro の発光モード、光量、照射角の設定は、NAS コマンダー (Air10s) またはコマンダーモードの MG80 Pro から行います。

スレーブモードで使用するための準備

- MG80 Pro の電源を入れた後、再度電源ボタンを 3 秒長押しして、動作モード選択画面を開きます。
- 動作モード選択画面で、セレクトダイヤルを操作してスレーブモードを選択します。決定するには **⏏** ボタンを押します。
- 一度、MG80 Pro の電源を切ります。
- スレーブモードに設定した MG80 Pro と NAS コマンダーまたはコマンダーモードに設定された MG80 Pro をペアリングします。
- ペアリングが成功すれば準備は完了です。
- **【ソニー用のみ】** カメラメニューでワイヤレスフラッシュの設定を「入」にしてください。

コマンダーとMG80 Proスレーブモードのペアリングの方法

【コマンダーがAir10sの場合】:

1. MG80 Pro (スレーブモード) の電源が切れた状態で、MG80 Pro の電源ボタンと **⏏** ボタンを同時に 2 秒長押しし、ピープ音が鳴り出したら手を離します。
2. Air10s の電源が切れた状態で、Air10s の電源ボタンと **⏏** ボタンを同時に 2 秒長押しし、手を離します。するとスレーブモードの MG80 Pro のピープ音が止まり、ペアリングが完了となります。

【コマンダーがMG80 Pro (コマンダーモード)の場合】:

本取扱説明書の P.13 ペアリングの方法の MG80 Pro の項目をご覧ください。

⚠ 注意

コマンダー、スレーブのどちらか一方がオープンモードになっているとペアリングをしても発光しません。オープンモードになっている場合にはオープンモードを解除してください。

【メモ】：ペアリング後は、電源を切っても再度コマンダーとペアリングを行う必要はありません。ただし、他のコマンダーとペアリングをした場合は再度ペアリングを行う必要があります。

スレーブモードの基本操作

スレーブモードに設定した MG80 Pro の発光モード、発光量、照射角などの設定は NAS コマンダー Air10s、またはコマンダーモードの MG80 Pro から行います。NAS コマンダーでの操作については NAS コマンダーの取扱説明書を、コマンダーモードの MG80 Pro からの操作については本取扱説明書の P.12～をご覧ください。

発光グループの設定

MG80 Pro は A/B/C/D の基本グループと $\dot{A}/\dot{B}/\dot{C}/\dot{D}$ のアドバンスグループに対応します。初期設定では A グループに設定されます。

発光グループを変更するにはグループ選択ボタンを押して任意のグループを選択してください。基本グループとアドバンスグループを切り替えるには、モデリングライトボタンを約 2 秒長押しします。

その他の設定・機能

■ハイスピードシンクロ(HSS/FP発光)《オンカメラモード/コマンダーモード》

MG80 Proは、1/8000秒のシャッタースピードまで同調するハイスピードシンクロ機能(FP発光)に対応しています。

本機能は、TTLモードでもMモードでも使用できます。

ハイスピードシンクロ(FP発光)を有効にする方法

キヤノン用・ソニー用

1. カメラのホットシューにMG80 Proを装着し、MG80 Proとカメラの電源を入れます。
2. MG80 ProのHSSボタンを長押し(約2秒)し、ハイスピードシンクロのON/OFFを切り替えます。

ニコン用

1. カメラのホットシューにMG80 Proを装着し、MG80 Proとカメラの電源を入れます。
2. カメラ内メニューのフラッシュ撮影同調速度の設定をオートFPに設定します。

⚠ 注意

ハイスピードシンクロ(FP発光)はカメラ側が対応していない場合は使用できません。

【メモ】：MG80 Proがスレーブモードの時、ハイスピードシンクロの設定はコマンダー側で行います。

【メモ】：仕様上、ハイスピードシンクロに設定した時の最小発光量は1/32となります。発光量を1/32未満に設定しても、シャッターを切ると発光量は自動的に1/32に変更されます。

■ 後幕シンクロモード《オンカメラモード／コマンダーモード》

カメラのメニューで後幕シンクロに設定すると、シャッターが閉じる直前に発光を行います。

！ 注意

キヤノン用はコマンダーモード時には後幕シンクロの設定はできません。

！ 注意

後幕シンクロはカメラ側が対応していない場合は使用できません。

■ 赤目緩和機能

カメラのメニューで「赤目緩和機能」を設定すると、被写体の赤目現象を緩和するために、本機は本発光を行う直前にプリ発光を行います。

■ チャンネル設定 《コマンダーモード／スレーブモード》

NASシステムは2.4GHz帯の電波を使用し、8つのチャンネルを設けています。チャンネル表示は画面左下にA（オート）または1～8の数字で表示されます。ワイヤレスで発光しにくいときはチャンネルの変更を試してください。

設定方法

Channel ボタンを約2秒長押しし、セレクトダイヤルを回してチャンネルを選択します。決定するにはもう一度Channel ボタンを約2秒長押しします。

！ 注意

Di700A/i60A /AirRは、MG80 Pro コマンダーモードのチャンネル1に対応していません。MG80 Proをコマンダーとして、スレーブにこれら3機種をお使いの場合、チャンネルは2-8チャンネルに設定してご利用ください。

！ 注意

コマンダー、スレーブ間のチャンネルが合っていないと発光できなくなります。チャンネルのズレを防ぐため、スレーブモード時のMG80 Proのチャンネル設定は、基本的にA（オート）のままで構いません。スレーブ側がAの時は、コマンダー側でチャンネルを変更しても通信可能です。もしスレーブ側のチャンネル変更を行う場合は、コマンダー側のチャンネルもスレーブ側に合わせて変更してください。

■ オープンモード 《コマンダーモード／スレーブモード》

NAS コマンダーとNAS ストロボをペアリングせずに接続・通信するモードです。NAS システムでは、ペアリングを行うとNAS ストロボは1つのコマンダーでのみコントロールができますが、オープンモードでは、1つのスレーブストロボを複数台のコマンダーからコントロールすることができます。

設定方法

- M/TTL ボタンを約2秒長押しします。設定すると液晶画面左下にOPENと表示されます。
- コマンダーとスレーブストロボのチャンネルを合わせます。設定方法は前項のチャンネル設定を参照してください。
- オープンモードの設定を解除するにはM/TTL ボタンを約2秒間長押しします。

【メモ】： オープンモードに設定しても、一度ペアリングを行なっていればペアリングが外れることはありません。

【メモ】：スレーブストロボがオート (A) チャンネルの時は、コマンダーとペアリングを行っていない場合、スレーブストロボのチャンネルがオート (A) のままの場合は発光しません。コマンダーと同じチャンネルに合わせてご使用ください。

■アドバンスグループ 《コマンダーモード／スレーブモード》

MG80 Pro は、基本グループ A/B/C/D の他に、アドバンスグループの \dot{A} / \dot{B} / \dot{C} / \dot{D} に対応しています。アドバンスグループでは、TTL モードと M モードを混在して発光させること (ミックスモード) ができます。

設定方法

基本グループとアドバンスグループの切り替えは、モデリングライトボタンを2秒間長押しして切り替えます。

■ミックスモード 《コマンダーモード》

ミックスモードとは、発光モード (TTL モードと M モード) を混在して発光させることができる機能です。アドバンスグループ (\dot{A} / \dot{B} / \dot{C} / \dot{D}) で利用できます。

設定方法

アドバンスグループが表示されている状態で、発光モードを設定したいグループのグループボタンを押します。選択したグループが点滅表示している状態で、M/TTL ボタンを押して発光モードを切り替えます。設定を完了するには、点滅表示しているグループのグループボタンを押します。

⚠ 注意

アドバンスグループおよびミックスモードを利用するには、アドバンスグループ対応のコマンダー / ストロボが必要です。

■ TTLメモリー機能 《コマンダーモード》

TTLからMモードに切り替えた時に、直前のTTL発光量がMモードでの発光量に変換される機能です。最初にTTLで大まかな光量を決めた後にMモードに切り替えて光量を微調整できるので、最適な光量を素早く決定することができます。

■ モデリングライト 《全モード》

モデリングライトボタンを押してモデリングライトのON/OFFが設定できます。スレーブモード時は、NASコマンダーまたはコマンダーモードのMG80 ProでON/OFFの切り替えをします。

⚠ 注意

- ・ 光量調整はできません。
- ・ ストロボがチャージ中のときは、モデリングライトが一時的に消灯します。
- ・ i60A や i40 に搭載されているLEDライトは制御できません。

■ ビープ音のON/OFF設定 《コマンダーモード／スレーブモード》

コマンダーモード

スレーブストロボがチャージ中の際や、光量設定などの操作後はスレーブストロボからビープ音が鳴ります。ビープボタンを2秒長押しすることでビープ音のON/OFF設定ができます。ビープ音OFFマークが液晶に表示されている場合はビープ音がOFFの状態です。ビープ音OFFマークが表示されていない場合は、ビープ音はONの状態です。

スレーブモード

コマンダーでビープ音がONの設定になっていても、本機のビープボタンを2秒以上長押ししてビープ音OFFマークを表示させると、本機のみビープ音をOFFにすることが出来ます。

元に戻すにはもう一度ビープボタンを2秒以上長押しします。

【メモ】：コマンダーでOFFに設定されている場合は、スレーブ側のビープ音の設定がONになっていてもビープ音は鳴りません。

■ AF補助光* 《オンカメラモード／コマンダーモード》

低コントラストの被写体や、暗所で撮影を行う場合、オートフォーカス補助光を被写体に自動的に照射し、フォーカスが合焦しやすくします。照射された赤色光は撮影画像には写りません。

* 一部のカメラでは点灯しません

■ 限定オートズーム (ALモード) の設定 《コマンダーモード》

MG80 Proは照射角が望遠側になるほど、モデリングライトとストロボ光の光軸のズレが大きくなるため、オートズーム時にモデリングライトを点灯させた時の照射角の連動範囲を24mm～50mmに制限するALモードが搭載されています。

照射角の設定画面でA (オート) に合わせた後、ダイヤルを素早く反時計方向に一回転させるとALモードに切り替わります。(元に戻す場合はもう一度回転させて下さい。)

■ 操作ロック 《全モード》

誤操作防止のために操作をロックする時は、**🔒** ボタンをダブルクリックします。

もう一度ダブルクリックするとロックが解除されます。

■ バウンス撮影 《全モード》

主に屋内で、天井や壁などにストロボ光を反射させてバウンス撮影を行うと、被写体の不自然な影を和らげ、自然な雰囲気になります。

MG80 Pro の発光面の向きを変えるには、バウンスロックボタンを押しながらヘッドを動かします。

ヘッドは、

上方：45度、60度、70度、90度

下方：7度

左右：30度、60度、90度、120度、150度、180度

に、発光部を向けることができます。

⚠ 注意

- ・バウンス時、照射角はオートズームに設定している場合は50mmに固定されます。(スレーブ時を除く)
- ・天井や壁までの距離が離れているときは、ストロボ光が十分に反射せず、効果を得られない場合があります。
- ・バウンス撮影時のストロボ光は、天井や壁の色の影響を受け着色する場合があります。
- ・バウンス時は、光が減衰します。効果が十分得られない場合は、カメラのISO感度を上げるなど、露出設定を調節してください。

ガイドナンバーテーブル (ISO100・m) 照射角は35mm版換算値

焦点距離	パワーレベル								
	Full	1/2	1/4	1/8	1/16	1/32	1/64	1/128	1/256
24mm	27	19	13	10	7	5	3	2	2
28mm	29	20	14	10	7	5	4	3	2
35mm	32	23	16	11	8	6	4	3	2
50mm	39	28	20	14	10	7	5	3	2
70mm	42	30	21	15	11	7	5	4	3
85mm	45	32	23	16	11	8	6	4	3
105mm	50	36	25	18	13	9	6	4	3
135mm	54	38	27	19	13	10	8	5	3
200mm	60	42	30	21	15	11	7	5	4
ズームカバーなし	20	14	10	7	5	3	2	2	1

主な仕様

マウント	キヤノン用／ニコン用／ソニー用
ガイドナンバー	60 (ISO100・m 照射角 200mm) 32 (ISO100・m 照射角 35mm)
発光管出力	83Ws
カバー焦点距離	24mm-200mm (ワイドパネル使用時 18mm) オートズーム・限定オートズーム (ALモード) 対応
電源	リチウムイオン充電電池 (14500) 4本 または 単3形ニッケル水素充電電池 4本
最小発光間隔 *1	《リチウムイオン充電電池使用》約 0.1 秒～ 1.2 秒 *2 《ニッケル水素充電電池使用》約 0.1 秒～ 3.7 秒 *3
発光回数	360 回 *1 (1000mAh リチウムイオン充電電池) 250 回 *1 (2450mAh 単3形ニッケル水素充電電池)
色温度	約 5600K (ズームカバー装着時)
動作モード	オンカメラモード / コマンダーモード / スレーブモード
ワイヤレスモード	2.4GHz 電波式ワイヤレス TTL コマンダー / スレーブ (NAS)
コントロールコマンダー	ニッシン Air10s / MG80 Pro (コマンダーモード) / Air1 *4
コマンダーモード時の発光間隔	最速 10 回 / 秒
通信距離	最大 100m *1
通信チャンネル	8 チャンネル
発光グループ	8 グループ (基本グループ A/B/C/D、アドバンスグループ \dot{A} / \dot{B} / \dot{C} / \dot{D})
発光モード	《TTL》E-TTL II / E-TTL (キヤノン用)、i-TTL / i-TTL-BL (ニコン用)、P-TTL (ソニー用) 《マニュアル》
光量調整幅	TTL : -2.0EV～+2.0EV の間で 1/3EV 刻みで調節可能 マニュアル: 1/256～1/1 の間で 1/3EV 刻みで調節可能
バウンス	上方 90°・下方 7°・左 180°・右 180°
その他の機能	ハイスピードシンクロ (FP 発光) *5、後幕シンクロ *5 *6、スローシンクロ、赤目緩和機能、モデリングライト、アドバンスグループ、TTL メモリー
表示部	カラー LCD
AF 補助光 *7	有効距離 0.7m～5m
寸法	約 73(W)×137(H)×120(D) mm
質量	約 520g (電池除く)

*1 使用環境や電池性能により異なる場合があります *2 マニュアル調光時。TTL 調光時は約 0.1 秒～ 1.5 秒

*3 マニュアル調光時。TTL 調光時は約 0.1 秒～ 5.7 秒 *4 機能制限があります。Air1 の仕様に基づきます *5 カメラ側も対応している必要があります

*6 キヤノン用はオンカメラモード時のみ *7 一部カメラでは動作しません

※製品の仕様は、改良などにより予告なく変更することがあります。

Nissinは、ニッシンジャパン株式会社の登録商標です。その他記載の会社名や製品名は、それぞれの会社の登録商標または商標です。

★カメラとの対応状況やファームウェアアップデートについては、ニッシンジャパンのホームページ各製品情報をご覧ください。

★お問い合わせはホームページのお問い合わせフォームをご利用ください。

ニッシンジャパンホームページ : <https://www.nissin-japan.com>

Ver. 19121902

■ リチウムイオン充電電池の使用について

◆ 免責事項

リチウムイオン充電電池は、ニッケル水素充電電池やアルカリ電池等と比べて熱やショート、機械的圧力に対する耐性が低く、発熱、破裂、発火を防ぐため、下記の注意事項を必ずお守りください。

電池を正しく取り扱わなかったり、電池の不具合により機器が故障した場合は、購入した時期に関わらず有償修理となります。同様に電池が発熱、破裂、発火することにより機器の周りの物品に損害を与えたり、怪我をした場合も弊社は一切の責任を負いませんのでご了承ください。

◆ リチウムイオン充電電池の使用環境に関する注意

1. リチウムイオン充電電池を自動車のダッシュボードや窓際など直射日光の当る場所、炎天下駐車の内車など、高い温度になる場所に放置しないでください。リチウムイオン電池を漏液させる原因になる恐れがあります。
2. リチウムイオン充電電池をストーブなどの熱源のそばに放置しないでください。発熱、破裂、発火の原因になります。

◆ リチウムイオン充電電池の使用に関する注意

1. 使用前に、必ず機器の取り扱い説明書、または注意書きをお読みください。
2. リチウムイオン充電電池を使用する際は、必ず指定されたサイズの電池を入れてください。スペーサー等を用いたりして指定外の電池を使用すると、異常時に過熱保護機能などが正常に動作せず、電池が発熱、破裂、発火の原因になります。
3. リチウムイオン充電電池は必ず保護回路を内蔵しているものを使用してください。保護回路が付いていない電池を使用すると、特に機器から取り外して持ち運ぶ際にショートなどによる発熱、破裂、発火のリスクが高まります。
4. リチウムイオン充電電池を水、海水、ジュースなどの液体で濡らさないでください。リチウムイオン充電電池に組み込まれている保護回路が壊れ、異常な電流、電圧でリチウムイオン電池が充電され、発熱、破裂、発火の原因になります。
5. リチウムイオン充電電池はその電池に適合した充電器、A Cアダプターを使用してください。適合していない充電器、A Cアダプターで充電すると、充電条件が異なるため、発熱、破裂、発火の原因になります。

6. リチウムイオン充電電池はプラス・マイナスの向きが決められています。充電器や機器に接続する時にうまくつながらない場合は無理に接続しないでください。プラス・マイナスを逆に接続すると、リチウムイオン充電電池が逆に充電され内部で異常な反応が起こり、リチウムイオン充電電池を漏液、発熱、破裂、発火させる原因となります。
7. リチウムイオン充電電池は充電器を介さずに直接電源コンセントや自動車のシガレットライターの差込口に接続しないでください。感電したり、高い電圧が加えられることによって過大な電流が流れ、リチウムイオン充電電池を漏液、発熱、破裂、発火させる原因になります。
8. リチウムイオン充電電池を自動車のダッシュボードや窓際など直射日光の当る場所、炎天下駐車の内車など、高い温度になる場所で充電しないでください。高温になると危険を防止するための保護機構が働き、充電できなくなったり、保護回路が壊れて異常な電流や電圧で充電され、発熱、破裂、発火の原因になります。
9. リチウムイオン充電電池を火の中に投入したり、ホットプレートなどで過熱しないでください。絶縁物が溶けたり、ガス排出弁や保護機構を損傷するだけでなく、発熱、破裂、発火の原因になります。
10. リチウムイオン充電電池のプラス端子とマイナス端子とを金属で接続しないでください。また、リチウムイオン充電電池をネックレスやヘアピン、コイン、鍵などと一緒に持ち運んだり、保管しないでください。リチウムイオン充電電池のプラスとマイナスがこれらの金属によりショートし、過大な電流が流れ、発熱、破裂、発火、あるいはこれらの金属などが発熱する原因になります。
11. リチウムイオン充電電池に高所からの落下など強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないでください。リチウムイオン充電電池が変形したり、リチウムイオン充電電池に組み込まれている保護機構が壊れ、異常な電流、電圧でリチウムイオン充電電池が充電される可能性があり、発熱、破裂、発火の原因になります。
12. リチウムイオン充電電池に釘を刺したり、ハンマーで叩いたり、踏みつけたりしないでください。リチウムイオン充電電池が変形、保護機構が破損する可能性があり、発熱、破裂、発火の原因になります。
13. リチウムイオン充電電池の端子に直接ハンダ付けしないでください。熱により絶縁物が溶けたり、ガス排出弁や保護機構が損傷し、発熱、破裂、発火の原因になります。
14. リチウムイオン充電電池を電子レンジや高圧容器などに入れしないでください。急に加熱されたり、密封状態が壊れたりして、発熱、破裂、発火の原因になります。

15. リチウムイオン充電機の充電や放電中に可燃物を上に載せたり、覆ったりしないでください。リチウムイオン充電機を発熱、破裂、発火させるおそれがあります。
16. リチウムイオン充電機を分解したり、改造しないでください。リチウムイオン充電機には危険を防止するためのガス排出弁や保護機構が組み込まれています。これらを損なうと、リチウムイオン充電機が発熱、破裂、発火する原因になります。
17. リチウムイオン充電機を長期間使用しない場合は機器から外して湿気の少ないところに保管してください。
18. 使用機器及び電池は乳幼児の手の届かないところに置いてください。不用意な取り扱いは危険を伴います。
19. 乳幼児や動物・ペットには、リチウムイオン充電機の取り扱い、運搬をさせないでください。(舐める、口に入れる、噛む 等の危険防止)
20. リチウムイオン充電機には寿命があります。機器の使用時間が短くなった時は、新しいリチウムイオン充電機とお取り替えください。
21. 電池の使用、充電、保管時の異臭、発熱、変色、変形、その他、今までと異なることに気づいた時は、機器あるいは充電器より取り出し、使用しないでください。使用継続の場合は電池が発熱、破裂、発火する原因になります。
22. 電池が漏液したり、異臭がする時には、直ちに火気より遠ざけてください。漏液した電解液に引火し、破裂、発火する原因になります。

Nissin ニッサンジャパン株式会社

〒166-0002 東京都杉並区高円寺北1丁目17番5号 上野ビル2F

ニッサンジャパンのホームページ <https://www.nissin-japan.com>